

令和8年2月23日(月)
大崎タイムス掲載

川 発達障害について学ぶ

古 従業員に対する理解と対応

大崎地区医師会連合
会と宮城労働基準協会
の選出委員でつくる大
崎産業保健推進協議会
(近江徹廣代表幹事)

は18日、研修会を大崎
市古川のグランド平成
で開き、発達障害があ
る従業員に対する事業
者の理解と対応につい

て学んだ。

宮城産業保健総合支
援センター産業保健相
談員の今村泰章さんが
講話。プライドの高さ
など障害のタイプに応
じた対応について「当
人の生産性を踏まえて
指導を試みるか雇用を

見直すか対応が分かれ
る」とした。

「本人の自覚を促す
のに有効な策」として
挙げたのが、上司や部
下、同僚らなど複数の
視点で対象者を評価す
る「360度評価」。他
者の目で等身大の自分
が分かれればショックを
受ける一方、改善につ
ながることが多い」と
指摘した。

「注意欠如多動症」
(ADHD) について
「加齢とともに改善す
ることもあるほか、薬
でコントロールするこ
ともできる。ミスをと
もに振り返ってやり直
したり作業工程を見直
したりして注意分散を
防ぎ、ミスの抑制につ
ながることが多い」と
語った。

参加した会員約30人

からは「発達障害の可
能性があることを理由
に受診を勧めるのはハ
ラスメント(嫌がらせ)
に当たるか」などの質
問が寄せられた。



発達障害について講演した今村さん